



2018年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2018年2月7日

上場会社名 株式会社よみうりランド 上場取引所 東
 コード番号 9671 URL http://www.yomiuriland.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 杉山 美邦
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 経理部担当 (氏名) 久米沢 賢尚 (TEL) 044-966-1134
 四半期報告書提出予定日 2018年2月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2018年3月期第3四半期の連結業績(2017年4月1日~2017年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年3月期第3四半期	15,301	△2.9	1,350	△7.2	1,572	△20.5	2,010	—
2017年3月期第3四半期	15,765	12.3	1,456	△37.3	1,976	△35.0	△252	—

(注) 包括利益 2018年3月期第3四半期 2,365百万円(148.9%) 2017年3月期第3四半期 950百万円(△68.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2018年3月期第3四半期	円 銭 261.48	円 銭 —
2017年3月期第3四半期	△32.77	—

(注) 当社は、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2018年3月期第3四半期	百万円 69,135	百万円 27,629	% 40.0
2017年3月期	68,312	25,652	37.6

(参考) 自己資本 2018年3月期第3四半期 27,629百万円 2017年3月期 25,652百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2017年3月期	円 銭 —	円 銭 2.50	円 銭 —	円 銭 2.50	円 銭 5.00
2018年3月期	—	2.50	—		
2018年3月期(予想)				25.00	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。2018年3月期(予想)の1株当たり期末配当金については、当該株式併合の影響を考慮した金額を記載し、年間配当金合計は「—」として記載しております。株式併合を考慮しない場合の2018年3月期(予想)の1株当たり期末配当金は2円50銭となり、1株当たり年間配当金は5円となります。詳細については、「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

3. 2018年3月期の連結業績予想(2017年4月1日~2018年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,150	△4.3	1,350	△35.9	1,560	△40.5	1,980	△44.3	257.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。2018年3月期の連結業績予想における1株当たり当期純利益については、当該株式併合の影響を考慮しております。詳細については、「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2018年3月期3Q	8,352,202株	2017年3月期	8,352,202株
② 期末自己株式数	2018年3月期3Q	664,683株	2017年3月期	663,679株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2018年3月期3Q	7,688,254株	2017年3月期3Q	7,701,980株

(注) 当社は、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

- ※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です
- ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項
 (将来に関する記述等についての注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は経済情勢や天候等の様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(株式併合後の配当及び連結業績予想について)

当社は、2017年6月22日開催の第93回定時株主総会において、株式併合について承認可決され、2017年10月1日を効力発生日として、普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。
 なお、株式併合考慮前に換算した2018年3月期の配当予想及び連結業績予想は以下のとおりとなります。

- 2018年3月期の配当予想
 1株当たり配当金 第2四半期末 2円50銭 期末 2円50銭 年間配当金合計 5円00銭
- 2018年3月期の連結業績予想
 1株当たり当期純利益 通期 25円75銭

(日付の表示変更について)

当第2四半期より日付の表示を和暦から西暦へ変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が続きました。当社グループの関連する業界に影響を及ぼす個人消費については、緩やかに持ち直しの動きが続くものの天候不順の影響などもあり、力強さを欠く状況で推移いたしました。

このような状況の下、当社グループは新規イベントの開催や既存イベントの強化などの積極的な営業展開により、顧客満足度の一層の向上を図ると共に、当社の親子向け屋内遊戯施設で3店舗目となる「あそびのせかいプライムツリー赤池店」を出店するなどして、事業の更なる拡大に努めてまいりました。

公営競技部門の川崎競馬は、前年同四半期比1日増となる49日開催されました。6月には重賞「関東オークス」、12月にはアメリカで開催されるケンタッキーダービーの出走馬選定ポイントレースに地方競馬のレースとして初めて選定された「全日本2歳優駿」が開催され盛り上がりを見せました。また、新たな顧客の獲得を目指し、「100円ビールフェスin川崎」、「全国餃子まつりinかわさき」、「かわさきパンマルシェ」など様々なイベントを開催したところ、2016年2月にオープンした商業施設「マーケットスクエア川崎イースト」からの利用客も相まって、多くのお客様で賑わいました。JRAの場外発売「ウインズ川崎」は、前年同四半期比2日増となる82日実施されました。なお、「マーケットスクエア川崎イースト」の隣接地に会員制建築資材卸売店舗を建設し、11月より事業会社へ賃貸を開始しております。船橋競馬は、前年同四半期比2日増となる42日開催されました。3年目を迎えたナイトー競馬「ハートビートナイトー」は、今年度も4月から開催いたしました。5月にはビッグレース「かしわ記念」が開催され、同日には恒例の「おうまフェス2017」を近隣商業施設と共に主催し好評を博しました。JRAの場外発売「J-PLACE船橋」は、前年同四半期同様39日実施されました。なお、船橋競馬場の隣接地に飲食店舗を建設し、10月より事業会社へ賃貸を開始しております。2016年4月にオープンした複合型場外発売施設「サテライト船橋・オートレース船橋」での発売は、サテライト船橋が前年同四半期比5日増となる272日、オートレース船橋が前年同四半期比6日増となる260日それぞれ実施されました。オートレース選手とのファンミーティングや有料席利用者に進呈するポイントを強化したキャンペーンなど様々なイベントを開催し、好評を博しました。

ゴルフ部門の東京よみうりカントリークラブは、競技会の受入れをはじめ、引き続き自主コンペやイベントを積極的に実施いたしました。また、2017年7月20日より運用を開始した乗用カートの効果などもあり、入場者は増加いたしました。なお、12月に開催された「ゴルフ日本シリーズJTカップ」は、賞金王争いなどの話題性もあり、盛り上がりを見せました。よみうりゴルフ倶楽部は、引き続き自主コンペが堅調に推移したことや積極的な外部営業などを実施した結果、入場者は増加いたしました。なお、クラブハウスレストランにて遊園地のイベント「ほたる・ねぶたの宵」や「ジュエルミネーション」と連携したディナーイベントを開催し、好評を博しました。静岡よみうりカントリークラブは、「レディースゴルフフェスタ2017」など女性をターゲットとした施策を継続的に実施いたしました。また、特産品やスイーツなどを賞品としたオープンコンペなどが集客に寄与した結果、10月の台風によるキャンセルの影響などがあったものの入場者は前年並みに推移いたしました。千葉よみうりカントリークラブは、リピーター獲得のため、来場者に積極的にアピールする優待施策や2018年9月に開場40周年を迎えることを記念してイベントなどを実施した結果、入場者は増加いたしました。

遊園地部門の遊園地では、「モノづくり」をコンセプトとして誕生した新エリア「グッジョバ!!」が2年目を迎え、依然高い人気を誇っております。また、引き続きイベントにも力を入れ、夏期には、エンターテインメントプロジェクト「HIGH&LOW」の世界を体感できる「HIGH&LOW THE LAND」と「HIGH&LOW THE MUSEUM」や、参加型ずぶぬれイベント「ビッジョバ!!ずぶぬれ大作戦」などを初開催し、多くのお客様で賑わいました。その他、全国のご当地グルメを集めた「全国ご当地大グルメ祭2017」、青森ねぶたを初展示したほたる鑑賞イベント「ほたる・ねぶたの宵」、プロジェクションマッピングと現代影絵の専門劇団・かかし座による影絵をコラボレートさせた「光と影のアートマッピング～Shadow Halloween Night～」なども更に磨きをかけて開催し、ご好評を得ました。そして、世界的照明デザイナー石井幹子氏プロデュース、イルミネーションイベント「ジュエルミネーション」は8シーズン目を迎え、首都圏最大級の球数となる550万球で園内を彩っております。今シーズンは、女性をターゲットとした新エリア「スイーツエリア」や、イルミネーションに囲まれたアイススケートリンク「ホワイトジュエル」をオープンしたほか、例年人気の噴水ショーでは、高さ12m（4階建ビル相当）の巨大なリング型噴水を導入し、迫力のショーを開催しております。これらの結果、夏期は昨年を上回る入園者となったものの、10月の悪天候が大きく影響し、入園者は減少いたしました。夏のプールWAIは、国産天然水「キリン 晴れと水」とコラボレートしたウォーターゲーム「アクアゲッター」や、今年で8年目を迎えるオリ

ジナルダンスと放水ショーのコラボレーションショー「ダンスプラッシュ!!」、例年人気のおもちゃのアヒルレースのほか、スマートフォンと連動するウォータースライダー「思い出スライダー『メサージュ』」が初登場するなど、エンターテインメントプールとして毎日多数のイベントを開催し、好評を博しました。しかしながら、8月に東京では40年ぶりとなる長雨の影響などもあり、入場者は減少いたしました。温浴施設「丘の湯」は、お米などが景品のくじ引き抽選会や回数券ポイント2倍キャンペーンなどのイベントが好評を博しましたが、悪天候の影響などにより入場者は減少いたしました。なお、丘の湯プラザの中華レストラン「天安」では遊園地と連携した「天安 ほたる・ねぶたの宵 特別ディナー」や「ジュエルミネーション特別メニュー」などを実施したほか、プラザ内のベーカリーや和菓子店においても同様に遊園地のイベントと連携した商品などを販売し、好評を博しました。10周年を迎えた温浴施設「季乃彩(ときのいろどり)」は、替わり湯や食事処で季節毎のメニュー提供を実施したほか、「10周年記念イベント」などのイベントを開催した結果、入場者は増加いたしました。ゴルフ練習施設「よみうりゴルフガーデン」は、「スタンププラス1キャンペーン」や「プリカ&カラーボールキャンペーン」などのイベントを実施した結果、悪天候による影響があったものの入場者は前年並みに推移いたしました。親子向け屋内遊戯施設「キドキドよみうりランド店」は、集客用横断幕の掲示などを実施したほか、5周年記念イベントの開催やあそび放題パスの販売が好評を博した結果、入場者は増加いたしました。商業施設「グランツリー武蔵小杉」内の「あそびのせかいグランツリー武蔵小杉店」は、3周年記念イベントの実施やあそび放題パスの販売などが好評を博した結果、入場者は増加いたしました。11月下旬に愛知県日進市に新規オープンした商業施設「プライムツリー赤池」内に、「あそびのせかいプライムツリー赤池店」を「キドキドよみうりランド店」、「あそびのせかいグランツリー武蔵小杉店」に続く株式会社ボーネルンドのフランチャイズ3店舗目として出店いたしました。入場者数は想定を大きく上回り、好調に推移しております。

以上の結果、総合レジャー事業の売上高は137億6千1百万円(前年同四半期比3.5%減)となりました。

また、不動産事業の売上高は10億1千1百万円(同4.3%減)、サポートサービス事業の売上高は24億2千8百万円(同10.6%減)となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は153億1百万円(同2.9%減)、営業利益は13億5千万円(同7.2%減)、経常利益は15億7千2百万円(同20.5%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は固定資産売却益などにより、20億1千万円(前年同四半期は2億5千2百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ8億2千3百万円増加し、691億3千5百万円となりました。これは、有形固定資産が10億4百万円減少、受取手形及び売掛金が4億9千8百万円減少したものの、現金及び預金が18億2千5百万円増加、投資その他の資産が4億8千1百万円増加したことが主な要因であります。

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ11億5千2百万円減少し、415億6百万円となりました。これは、1年内返済予定の長期借入金が5億9千5百万円増加、未払法人税等が3億1千6百万円増加したものの、長期借入金15億7千7百万円減少、短期借入金10億円減少したことが主な要因であります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ19億7千6百万円増加し、276億2千9百万円となりました。これは、利益剰余金が16億2千5百万円増加したことが主な要因であります。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の37.6%から40.0%に増加しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2018年3月期の通期の連結業績予想につきましては、おおむね計画通りに推移するものと見込んでいるため、2017年5月12日発表の数値から変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2017年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,313,770	6,139,719
受取手形及び売掛金	1,566,469	1,067,533
たな卸資産	135,427	120,685
繰延税金資産	136,813	121,320
その他	206,598	258,438
貸倒引当金	△1,028	△411
流動資産合計	6,358,050	7,707,286
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	27,785,539	27,223,616
土地	16,390,743	16,228,800
建設仮勘定	109,905	550,922
その他（純額）	4,841,323	4,119,629
有形固定資産合計	49,127,512	48,122,968
無形固定資産		
その他	66,366	63,992
無形固定資産合計	66,366	63,992
投資その他の資産		
投資有価証券	12,261,746	12,803,247
繰延税金資産	185,738	192,231
その他	312,608	246,144
投資その他の資産合計	12,760,094	13,241,623
固定資産合計	61,953,973	61,428,585
資産合計	68,312,023	69,135,871

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2017年12月31日)
負債の部		
流動負債		
営業未払金	448,848	638,262
短期借入金	2,070,000	1,070,000
1年内返済予定の長期借入金	1,424,236	2,019,796
未払法人税等	250,145	566,928
賞与引当金	131,345	33,081
その他	1,858,563	1,967,809
流動負債合計	6,183,138	6,295,877
固定負債		
長期借入金	8,754,764	7,177,307
繰延税金負債	2,460,701	2,555,854
退職給付に係る負債	522,857	525,040
長期預り金	24,196,655	24,366,931
その他	541,266	585,706
固定負債合計	36,476,244	35,210,839
負債合計	42,659,383	41,506,716
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,053,030	6,053,030
資本剰余金	4,730,631	4,730,658
利益剰余金	12,904,854	14,530,778
自己株式	△2,277,354	△2,282,380
株主資本合計	21,411,161	23,032,087
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,244,831	4,600,465
繰延ヘッジ損益	△3,352	△3,398
その他の包括利益累計額合計	4,241,479	4,597,066
純資産合計	25,652,640	27,629,154
負債純資産合計	68,312,023	69,135,871

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2016年4月1日 至2016年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年12月31日)
売上高	15,765,133	15,301,439
売上原価	12,776,962	12,499,032
売上総利益	2,988,170	2,802,407
販売費及び一般管理費	1,531,935	1,451,419
営業利益	1,456,235	1,350,988
営業外収益		
受取配当金	213,896	218,477
建設発生日受入金	298,807	—
その他	60,799	40,715
営業外収益合計	573,503	259,193
営業外費用		
支払利息	47,846	34,634
その他	5,012	3,224
営業外費用合計	52,858	37,859
経常利益	1,976,879	1,572,322
特別利益		
固定資産売却益	18,334	1,454,785
特別利益合計	18,334	1,454,785
特別損失		
固定資産除却損	1,346,526	140,702
災害による損失	6,900	—
減損損失	1,356,662	—
特別損失合計	2,710,089	140,702
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△714,875	2,886,405
法人税、住民税及び事業税	509,330	928,712
法人税等調整額	△971,785	△52,653
法人税等合計	△462,454	876,059
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△252,421	2,010,345
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△252,421	2,010,345

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△252,421	2,010,345
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,203,137	355,634
繰延ヘッジ損益	△14	△46
その他の包括利益合計	1,203,123	355,587
四半期包括利益	950,701	2,365,933
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	950,701	2,365,933
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	総合レジャー 事業	不動産事業	サポート サービス事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	14,249,986	1,054,544	460,602	15,765,133	—	15,765,133
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,715	2,700	2,254,881	2,263,296	△2,263,296	—
計	14,255,702	1,057,244	2,715,483	18,028,429	△2,263,296	15,765,133
セグメント利益	1,963,835	708,015	254,066	2,925,918	△1,469,683	1,456,235

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,469,683千円には、セグメント間取引消去△58,530千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,411,153千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「総合レジャー事業」セグメントにおいて、当社の所有する船橋オートレース場の諸資産に関して、工作物等を収去のうえ、土地所有者に明け渡すことで合意に達しました。これに伴い、当第3四半期連結累計期間に固定資産の減損損失1,356,662千円を計上しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	総合レジャー 事業	不動産事業	サポート サービス事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	13,757,437	1,008,327	535,675	15,301,439	—	15,301,439
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,474	2,950	1,892,521	1,899,946	△1,899,946	—
計	13,761,912	1,011,277	2,428,197	17,201,386	△1,899,946	15,301,439
セグメント利益	1,901,760	639,163	151,636	2,692,560	△1,341,572	1,350,988

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,341,572千円には、セグメント間取引消去△28,250千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,313,321千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。